

信州大学新学部誘致推進協議会の設立について

総合政策部企画課

1 設立までの経過について

令和3年12月22日に、経済団体等から南信州広域連合長（飯田市長）に対し「リニア時代を見据えた、飯田下伊那地域への信州大学新学部誘致に関する要望書」が提出されました。

要望を受けて広域連合長から、その場で引き続き、誘致活動を推進する団体の設立に向けた発起人会を立ち上げたいとの提案がされ、要望参加者のうち発起人となる意向が確認できた方、飯田信用金庫、南信州・飯田産業センター、南信州広域連合、下伊那郡町村会を発起人として発起人会を開催し、信州大学新学部誘致推進協議会の設立趣意書が確認されました。

その後、令和3年12月末から発起人が中心となり、企業、団体、個人の皆様に対し入会のご案内と申込の受付を行うとともに、令和4年1月15日（土）に設立総会の開催が決められました。

年明け令和4年1月になると、当地域において新型コロナウイルス感染症の陽性者が増加し、多くの参加者を集めて設立総会を開催することが難しい状況となったため、書面決議に変更して実施することになり、入会申込者（約800者）に対して書面表決書と規約、役員等人事、事業計画に関する議案3件を送付して、1月23日を期限としてご提出いただきました。

提出のいただいた正面表決書を集計した結果、すべての議案について過半数の賛成をもって可決され、令和4年1月23日に信州大学新学部誘致推進協議会が設立されました。

2 設立総会（書面決議）の結果について

(1) 期間

発送日：令和4年1月15日（土）

回答期限：令和4年1月23日（日）

(2) 送付及び回答の状況

送付数：786者（入会申込者、発起人他）に対し、議案と書面表決書を送付

回答数：642者から回答

(3) 各議案に対する賛否

議案第1号 信州大学新学部誘致推進協議会規約（案） 賛成 642、反対 0

議案第2号 顧問、役員及び幹事（案） 賛成 641、反対 1

議案第3号 令和3年度事業計画及び収入支出予算（案） 賛成 642、反対 0

<議案第2号に対する反対意見>

会長兼副会長（南信州広域連合長と南信州・飯田産業センター理事長）は、規約第10条の正副会長会の議決の際に計算がまぎらわしくなるのでやめるべき。南信州・産業センター理事長を副会長から除くか、同センターの副理事長を副会長としてはどうか。

<意見に対する回答>

南信州広域連合長、南信州・飯田産業センター理事長ともに組織の役職（代表）としての選出であり、正副会長会など同じ会議に出席の場合は、組織内で代理出席を求めるため、議決時に人数の不足は生じない。

(4) 決議結果

すべての議案について、過半数の賛成をもって可決されました。

これに伴い、信州大学新学部誘致推進協議会が設立されました。

(5) 設立日

令和4年（2022年）1月23日

（裏面に続く）

(6) 書面表決書の自由記入欄に記載のあった主な意見等

- ・地域の未来がかかっている！何がなんでも誘致を！！
- ・信州大学新学部が飯田地区に設置されることを切に願っております。
- ・飯下の信大卒業生の会を作り、誘致活動の協力を頂くと良いと思います。
- ・頑張りましょう！悲願達成！個人会員も含めて、会費徴収があってもいいし、住民からの寄附金もありと思います。運動資金を多くの皆さんが拠出することで、より身近に感じるし、幅広く厚みのある運動になると思います。個人会員の拡大運動もありだと思えます。
- ・地方都市で大学のある地域の状況や、まちづくりに大学がどのように生かされているかを理解し、更に大学のある意味を若者達にも伝え、全世代が盛り上がるような取り組みが必要だと思います。全力で応援致します。
- ・設立総会おめでとうございます。早々に今後の活動計画を定め、アクションを開始いただきたいと思えます。

(7) 結果通知

令和4年1月26日に、会員に対して結果を通知しました。  
また、同日マスコミ等に対してプレスリリースを行いました。

3 今後の活動について

新規入会者を引き続き募集し、会員の拡大を図ります。

(1) 会員資格

会の趣旨に賛同し共に活動していただける、個人、企業、各種団体、行政機関等

(2) 入会申込

南信州広域連合ホームページの「信州大学新学部誘致推進協議会入会のご案内」ページをご覧ください。

(3) その他

入会にあたって入会金等の負担はありません。随時入会いただけます。

より多くの皆様にこの活動にご参加いただけますよう、関係する皆様へお声がけをお願いいたします。

# (仮称) 信州大学新学部誘致推進協議会設立趣意書

現在の社会は、人口減少・少子高齢化社会の進行、世界的な気候変動と頻発する集中豪雨や災害の発生、新型コロナウイルス感染症の蔓延による経済・社会的活動の停滞、デジタル・情報化技術の加速度的発展等、克服すべき様々な課題が存在し、これまでに経験したことのない速度で社会が変容していく只中にあります。当地域においては、近い将来に開通するリニア中央新幹線によって、首都圏、中京圏との時間的距離が飛躍的に短縮され、世界各地へのアクセスも向上するなど、私たちの暮らしが大きく変化する時代がすぐそこまで近づいてきています。

このような中、2021年10月1日、国立大学法人信州大学の中村宗一郎新学長が就任に当たり会見で「新しい学問領域に挑戦し、これからの時代を担うデジタル人材を育成する新学部の創設を検討する」と言及されたのを受け、飯田・下伊那地域への信州大学の新学部設置に向けた誘致活動を、官民一体となり、地域が一致団結して行っていきたくと思います。これは、高等学校卒業後に大学等の高等教育機関に進学する若者の多くが地域を離れざるを得ない今日までの状況が、地域の将来を考える上で大きな障害となっており、4年制大学の設置を悲願としてきた当地域にとって千載一遇の好機であり、リニア中央新幹線開通と併せて地域の明るい未来を描き、実現するための希望の光となるものです。

信州大学の新学部構想は、デジタル・情報化技術が加速する今日の社会変化の中で、時代の要請に応えそれを牽引するデジタル人材の育成を目指すものと聞いており、大学の持つ、世界的研究・教育拠点、高度専門職業人養成、地域貢献・産官学連携・国際交流等の社会貢献といった機能が、当地域の学びの力と結びつくことによる「知の拠点」の形成を期待するとともに、地域の若者が地元に残り、ここで暮らしながら大学に進学することができるだけでなく、全国からそれを目指す若者を呼び寄せることにもなり、そうした学生や研究者がこの地に暮らすことによる地域経済への影響は計り知れないものがあると期待されます。また、産官学連携による新しい時代に向けた産業振興策は、基盤産業となった精密機械工業や航空・宇宙関連産業に止まらず、新しい大学の専門的な知見や高度専門人材を活かし、研究機関等の誘致から新産業育成へと繋がり、発展することが期待されます。このように大学の設置はリニア時代を見据えたまちづくりや産業育成と親和性が高く、この地域に多くの可能性をもたらします。

大きく変革する社会に対応し活躍するデジタル人材を育成するとされる信州大学の新学部を飯田・下伊那地域に設置し、リニア時代におけるまちづくりの中核として大学を据え、これを活かして新たな価値を創造することは、産官学が一体となって取り組む、この地域らしい未来の創造につながると同時に、国が提唱する地方創生の具体化であり、「スーパーメガリージョン構想」や「ナレッジリンク（知の集積）構想」に沿うもので、県土の均衡ある発展を目指す長野県の南の玄関口として、長野県やこの地域、ここに学部を設置する信州大学が、日本全国、全世界に対して存在感を示す絶好のチャンスになるものと考え、信州大学新学部の飯田・下伊那地域への設置実現に向けて、地域住民、産業界、金融機関、行政等が一丸となり、ここに信州大学新学部誘致推進協議会を設置します。

令和3年12月22日

## 設立発起人

南信州広域連合長（飯田市長）	佐藤 健
下伊那郡町村会長（豊丘村長）	下平 喜隆
飯田商工会議所会頭	原 勉
長野県経営者協会飯田支部長	木下 博隆
長野県商工会連合会南信州支部長	堀 政 則
長野県中小企業団体中央会下伊那支部長	中 田 教 一

（裏面につづく）

設立発起人（つづき）

みなみ信州農業協同組合代表理事組合長	寺 沢 寿 男
飯田信用金庫理事長	小 池 貞 志
南信州・飯田産業センター理事長	佐 藤 健
飯田水引協同組合理事長	岩 原 克 典
南信州食品産業協議会長	加 藤 昇
飯伊凍豆腐組合会長	木 下 博 隆
南信州工業会長	野 沢 稔 弘
飯田電子工業会長	川 手 清 彦
飯田市金融団代表幹事	北 山 良 一
飯田漬物協会会長	稲 垣 勝 俊
飯田下伊那菓子組合理事長	手 塚 宏 行
飯田クラフト協会会長	小 國 慎 治
南信縫製組合長	市 瀬 和 繁
飯田印刷工業組合長	吉 澤 和 人
下伊那園芸農業協同組合代表理事組合長	伊 藤 俊 一
長野県建設業協会飯田支部長	北 沢 資 謹
飯田建設事業協同組合理事長	北 沢 資 謹
一般社団法人飯伊建築業協会会長	長 坂 亘 治
飯田建設業クラブ会長	長 坂 亘 治
長野県土木施工管理技士会飯田支部長	棚 田 稔
一般社団法人飯田青年会議所理事長	小 林 大 悟
飯田商工会議所青年部会長	菅 沼 文 昭
しんきん若手経営者の会（SYMS）会長	古 田 誠
飯田市女性団体連絡協議会長	西 塚 洋 子
飯田商工会議所女性会長	佐々木 玲 子

信州大学新学部誘致推進協議会 顧問、役員及び幹事

顧 問

役職名	公職名	氏 名
顧 問	衆議院議員	宮 下 一 郎
	参議院議員	宮 島 喜 文
	長野県議会議員	小 池 清
	長野県議会議員	小 島 康 晴
	長野県議会議員	熊 谷 元 尋
	長野県議会議員	川 上 信 彦

役 員

役職名	公職名	氏 名
会 長	南信州広域連合長（飯田市長）	佐 藤 健
副会長	下伊那郡町村会長（豊丘村長）	下 平 喜 隆
	南信州広域連合議会議長（飯田市議会議長）	井 坪 隆
	下伊那郡町村議会議長会長	栗 生 勝 由
	飯田商工会議所会頭	原 勉
	長野県経営者協会飯田支部長	木 下 博 隆
	長野県商工会連合会南信州支部長	堀 政 則
	長野県中小企業団体中央会下伊那支部長	中 田 教 一
	みなみ信州農業協同組合代表理事組合長	寺 沢 寿 男
	飯田信用金庫理事長	小 池 貞 志
	南信州・飯田産業センター理事長	佐 藤 健
理 事	下伊那郡町村会副会長（根羽村長）	大久保 憲一
	下伊那郡町村会副会長（売木村長）	清 水 秀 樹
	飯田水引協同組合理事長	岩 原 克 典
	南信州食品産業協議会長	加 藤 昇
	飯伊凍豆腐組合会長	木 下 博 隆
	南信州工業会長	野 沢 稔 弘
	飯田電子工業会長	川 手 清 彦
	飯田市金融団代表幹事	北 山 良 一
	飯田漬物協会会長	稲 垣 勝 俊
	飯田下伊那菓子組合理事長	手 塚 宏 行
	飯田クラフト協会会長	小 國 慎 治

役職名	公職名	氏名
理事	南信縫製組合理長	市瀬 和 繁
	飯田印刷工業組合理長	吉澤 和 人
	下伊那園芸農業協同組合代表理事組合理長	伊藤 俊 一
	長野県建設業協会飯田支部長	北沢 資 謹
	飯田建設事業協同組合理事長	北沢 資 謹
	一般社団法人飯伊建築業協会会長	長坂 亘 治
	飯田建設業クラブ会長	長坂 亘 治
	長野県土木施工管理技士会飯田支部長	棚 田 稔
	一般社団法人飯田青年会議所理事長	小林 大 悟
	飯田商工会議所青年部会長	菅沼 文 昭
	しんきん若手経営者の会（SYMS）会長	古 田 誠
	飯田市女性団体連絡協議会長	西塚 洋 子
	飯田商工会議所女性会長	佐々木 玲 子
監事	下伊那郡町村会監査委員（下條村長）	金田 憲 治
	下伊那郡町村会監査委員（高森町長）	壬生 照 玄

#### 幹事

役職名	公職名	氏名
幹事長	南信州広域連合副管理者（飯田市副市長）	高田 修
幹事	飯田商工会議所専務理事	福澤 栄 二
	飯田信用金庫地域サポート部長	岩戸 久 義
	南信州・飯田産業センター事務局長	遠山 昌 和
	南信州広域連合事務局長	吉川 昌 彦
	下伊那郡町村会事務局長	岡庭 潤
	飯田市産業経済部長	串原 一 保
	飯田市総合政策部長	塚平 賢 志

信州大学新学部誘致推進協議会  
会員の皆様

## 信州大学新学部誘致推進協議会設立にあたり

信州大学新学部誘致推進協議会の設立にあたり、会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

今回の信州大学新学部誘致の活動は、当地域の悲願の達成に向けた取り組みであり、また、近い将来開通するリニア中央新幹線とともに、最先端の知見など大学の持つ様々な機能を活かして、この地域の未来を創っていくための取り組みであると考えています。

このような未来志向の取り組みに対して、入会のご案内から設立まで、短い期間であったにもかかわらず、約800もの企業、団体、個人、行政機関等の皆様にご入会いただきました。

設立総会はコロナ禍により書面決議となってしまいましたが、多くの方にご賛同を頂き、官民が一体となってここに信州大学新学部誘致推進協議会を立ち上げる事ができたことは、当地域の皆様の団結力と、未来を見つめる姿勢を表すものであると感じており、心より感謝申し上げますとともに、敬意を表します。

今後は、この活動を更に多くの皆様に発信し、共に活動する仲間を地域の隅々にまで広げ、増やしていくことが大切です。会員の皆様にはぜひ、この会をまだご存じでない方へ、趣旨をお伝えいただき、ご参加いただけるようお声掛けをお願いしたいと思います。

信州大学新学部誘致推進協議会の設立をスタートとして、新学部の設置を検討する信州大学を強力に応援していくとともに、当地域に暮らす一人一人が地域の将来を考える中で、将来ここで暮らす大学生や大学の関係者が住みたい、暮らしたいと思える、そんな魅力的な「大学のあるまち」を、皆様と共に地域一丸となって創ってまいりたいと思いますので、引き続きご理解、ご協力を頂きますようよろしくお願いいたします。

令和4年1月吉日

信州大学新学部誘致推進協議会

会長 佐藤 健